



P
518
9

逍遙文庫
文庫6
1412
9

40

35

30

25

20

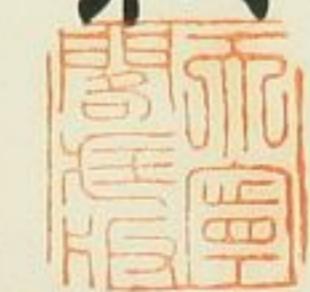
15

秀山先生續集

五

名流年譜

王寧之序



秀山先生續集

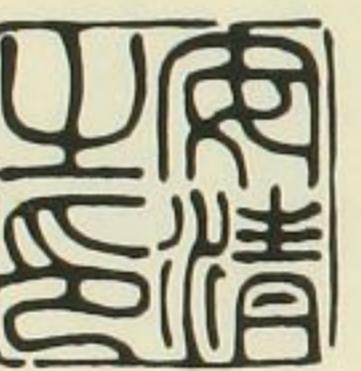


文庫6
1412
9

詩

文

金匱要略
卷之三



六十病蓮譜書

六十病蓮譜書

名家手簡五集目錄

上卷

藤原惺窩

林 羅山

人見竹洞

鳥山鶴仙

後藤芝山

岡 龍洲

森 儀塾

吉田篁畷

服部元雄

釋 常足

松下西峯

長久保赤水

下卷

土肥霞洲 桂山彩巖
瀧井太室 村井翠山
佐々十竹 細井平洲
十時梅厓 閣南樓
松山天姥

上卷

藤原惺窩

名肅字斂夫別号妙壽院竹居北肉山人紫立子廣胖窩下冷泉為純卿男播州人元和五年五十九沒

林公藏

雨中草
又か因そり
林公藏



國學

用那力算
西活一曲
擇云

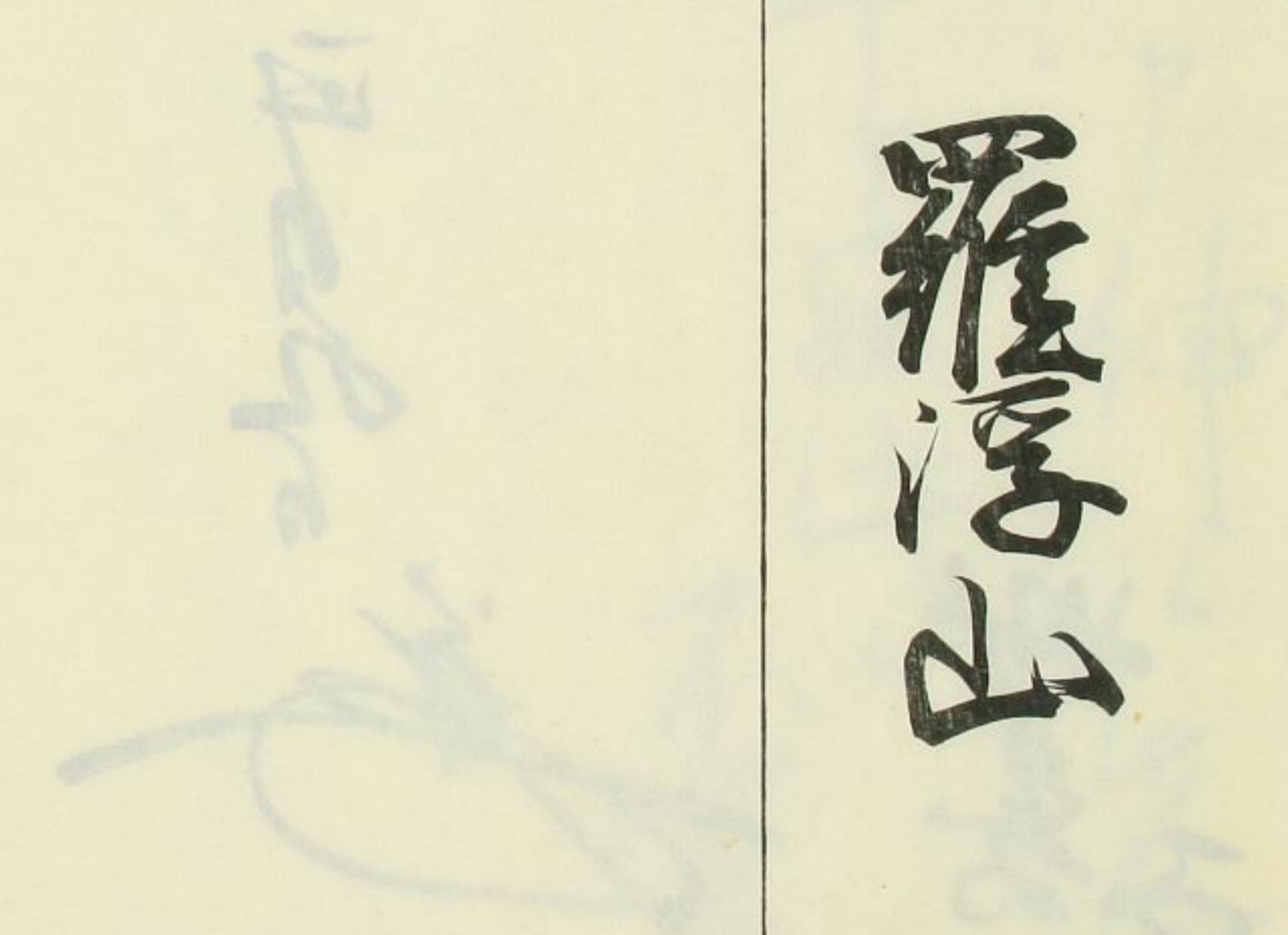
云あ紀風
此二連故地產
十日後即知
種些二丈
山川不
千里鵠毛
中
旅同、四蒙
可
之西

日本

新宿

早
朝
牛
込
不
宣
神
兒

羅浮山



林羅山

名信勝字子信称又三郎蘿髮称道春別号夕顏菴、胡蝶洞
四維山長梅村花平安人仕大府明曆年間七十五沒 家藏

林
羅
山
記
存
稿
卷
之
一
上
三

山中月夜
雨來家早
月一候
山中月夜
雨來家早

人見竹洞

姓小野名節字宜卿一號雀山號友元林道春門人仕
大府元祿九年沒

米菴藏

山中月夜
雨來家早

御
内
閣
書
院
奏
事
記
録
卷
之
二
百
五
九

卷之三

元
卷

鳥山窟仙

名輔忠字巽甫称孫兵府京師人善書好二王及三跡古風

三

かわ
ゆきの山を
えあら

まことに
おもろい
おもしろい

後藤芝山

名世鈞字守中別号茂齊號休兵唐瀘州人仕高松侯
天明二年六十二沒

橘堂藏

かのむぢりおめうすま
まきはまそとん爲く
せうじゆうめくらふ
まもれおのむらま
まくらはくはくま
まくらはくはくま

まゆりはまくらま
りまくらまくらま
わくらまくらまくら
まくらまくらまくら
まくらまくらまくら
まくらまくらまくら
まくらまくらまくら
まくらまくらまくら

以竹爲主佛多仰面
手執如意頭戴金冠
身着袈裟足踏緋履
是其形相也。又如釋迦
牟尼佛有經說云。世間
所有佛皆是釋迦牟尼
所現。故稱釋迦牟尼佛。
蓋觀音菩薩是釋迦牟尼
佛之大弟子也。

此觀音菩薩
乃釋迦牟尼佛之大弟子也

岡龍洲

名白駒字千里號太仲播州人住京攝間為蓮池庶
文學明和四年七十六沒

家藏

一
和事力汎多珍
也知也知向諭在本
多之空之とお清じてす
うすくはれまわらひあら

有而もうちまよすむか
終身於此アラニ西段
がりはるまよ力色
シテスルカドトロ写
メテスルカドトロ写
メテスルカドトロ写

支那の國中

少
許
之

森儀塾

名尚謙字利涉號龜之助又号不潔居攝州人學福住道祐
松永昌易仕水府享保六年六十九沒

おとこ在りまやう　まくわざり
第七八、伊勢、あらん。ひねるまほ
新八、何うははははははははは
草木、ばげ風、ばく見、ははははははは
一、手を取る上をへ
まつ様、産木、株、植
おはみゆる、是れ、花

内閣文庫蔵

一伊勢守彦馬事
之御甲冑被継し男
子として進み少佐
高級少將と爲り
至るまで之を有經九

森

内閣文庫蔵
中本邦國史
文庫本邦國史
之御甲冑被継
之御甲冑被継
一伊勢守彦馬事
之御甲冑被継

東坡先生集
是書有本元第八
印於嘉定丙子月
刻於嘉定丙子月
丁未年神去而事
方封付之以碑雖
竹石尤故其有

卷之二十一
行草書
丁未年神去而事
方封付之以碑雖
竹石尤故其有

佑之

六月八日

毒舌齋

過

吉田篁暎名漢臣字學生孫坦藏
寛政十年沒

家藏

萬葉五之卷
かのくとくの角る五葉
のくとくの角る五葉
あの方にあれんむらに
被葉山中やリ一子

のれいはるかに
そろしむるはる葉
をそりかへり、わよも
おひるみうきしむ
すりけり、わよてふる
おほくじふくしむ
猿あわらむしゆく
川舟か拂ちまよひて

服部元雄

字仲英，林多門本姓中西，攝州西官人。
為南郭義子。

多言方燭益以厚物生竹
望端於若殊二難後見
舉家無恙，多幸。原君
多承厚愛，所奉系药

和仲存

一葉風光歸不返
誰

憶故鄉
舊雨重臨

至海東行
呈劉

以上

丁巳廿二

小蓬萊

張家

釋常是

名默隱字佚山一號調古庵初稱森修未
學蒙所祐篆書寶曆年間人

古道西風瘦馬
夕陽西下
斷腸人在天涯
海闊天空
天高任我飛
人生自古誰無死
留取丹心照汗青
印
是
印

ちやくをむかへや日暮
放舟易快玉舟波
舟中一物珍る種類
更化豈是久近通事
多々船入多事事
多々畜産主難主
和教主事不全教
多用語義能宜事

山海經
一毛衣布絲綸之織物
其下則有石之謂也
余既已才之付山內
獨坐和歌上山也
猶矣
余之往來
予之命運接接

日本國
大正五年
九月廿四日
午後
晴
氣溫
二十度

紫牛ち株

松下西峯

名秀明称見林京師人業醫
精歷史國學

向後皆不審乞勿
送
先師是直先君之傳記
之年年一以人主之
御

望其馬場之主必也
以是之故也

松下風林

九月
五

林良以七
歲

長久保赤水

名玄珠字子玄称源五兵湖水戶人

家卷

前七年已成の日本史地理志著
述行。於此より地理
志全編を成す。因之御家ら
出来たる常陸國志と體制
と申す。並河五市五藏内
志又做ひ古老傳說と云り
俗名等と皆名約甚簡

昭和廿六年正月新編
唐土地理之編
十六國明一統志之體割
接り唯今本多百五十河市
五畿内。因板御免。之有
独立日本史地理志之體
製是同一國之體也

赤水一少之見識もハ
有矣然或人曰此地理志
赤水地理志テ日本史之地
理志非ト不審也立原喜
翁郎柳江作判吉良
ナニヨリ長久保赤水口上書
小宮山善助校

1900 / from the author

早稻田大学図書館

011688994332